

茶病虫害防除情報

令和3年6月4日

【第10号】

鹿児島県経済連・肥料農業課

梅雨最盛期・夏茶の安定生産のための

二番茶後～三番茶芽生育期の病虫害防除対策

九州南部の梅雨入りが平年より約20日早く5月11日に発表されました。愈々雨の季節になりました。今年はこれからどのような梅雨気象になるか気掛かりです。

二番茶の収穫は、早場産地から最盛期になってきました。二番茶後から三番茶芽生育期は高温・多雨・多湿の気象条件となり、病虫害の発生が多くなる時期です。今回は、二番茶摘採後から三番茶芽生育初期の病虫害防除対策についてお知らせします。

★ 病虫害の発生概要

二番茶は、降雨の中での摘採や整枝となる場所が多く、このため、「やぶきた」園では、輪斑病発生への恐れがあります。6月の発生予察情報は「並」予報です。チャノカクモンハマキ、チャハマキも「多」予報で、二番茶後頃が若齢幼虫期で防除適期になります。次に、三番茶芽生育初期は梅雨最盛期になると思われます。このため「やぶきた」園などでは炭疽病の発生が多くなります。伝染源となる二番茶摘採残病葉が多くなることを推察され、今後降雨が平年並みか多い予想などから発生は「やや多」となっています。また、黒葉腐病も高温・多雨・多湿条件が続くこの時期に最も発生します。「やぶきた」以外の品種でも発生しますので注意します。

この時期に発生する害虫も多くなってきます。発生予察情報ではチャノミドリヒメヨコバイ「やや多」、チャノキイロアザミウマ「少」、チャノホリガ「多」の予報です。特に梅雨明けが早いと三番茶芽生育後半は晴天になると思われますのでチャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生は多くなります。

★ 基本的対策・・・降雨による散布遅れにならないよう早めの予防散布

二番茶摘採後は、輪斑病は伝染源病葉の多い「やぶきた」園では防除が必要です。摘採・整枝直後に防除しますが、ストロベリン系薬剤の耐性菌が発生している地域では他系統の薬剤に替え、未発生地域でも使用回数は年1回に抑制します。ハマキ類の防除を第2世代に薬剤やハマキ天敵で行う場合は発蛾最盛日（フェロモントラップ）の9～15日後の若齢幼虫期に散布します。

三番茶芽生育初期の炭疽病・チャノミドリヒメヨコバイ・チャノキイロアザミウマ・チャノホリガなどの防除は同時防除が効率的で、萌芽～1葉期頃に摘採7～10日前に使用できる薬剤で防除します。

★ 輪斑病・・・「並」

摘採・整枝作業で感染するので刈番茶摘採や整枝後出来るだけ早く薬剤散布して、防除します。直後散布で有効な薬剤と3日後までの散布で有効な薬剤があるので注意します。

★ チャノカクモンハマキ チャハマキ・・・「多」 二番茶摘採・整枝後、若齢幼虫期に防除します。

★ 炭疽病・・・「やや多」 黒葉腐病・・・「注意」

「やぶきた」園は防除が必要です。今後の樹勢に影響する摘採残葉を健全に守るための防除

で、萌芽～1葉期が防除適期で、ダコニール1000で防除します。黒葉腐病も同時防除できます。

★ **チャノミドリヒメコハイ**・・・「やや多」 **チャノキイロアサミウマ**・・・「少」

茶芽生育初期に加害をうけると被害が大きくなるので三・四番茶萌芽期頃に防除します。感受性が低下している薬剤があるので選択に注意し、地区の栽培暦採用薬剤で防除します。

★ **チャノホカ**・・・「多」

1葉期頃に新葉の葉裏に産卵や葉潜り幼虫が多く認められる場合は直ちに防除します。発生時期が遅れ、2～3葉期以降の産卵では被害は回避されますので防除の必要はありません。

表 二番茶後～三(四)番茶芽生育初期の病虫害防除法

病虫害 (防除時期)	防除薬剤	希釈倍数 (倍)	使用基準 使用時期・回数	使用上の留意事項
輪斑病 (二番茶刈番茶 摘採後・整枝後)	ダコニール1000	700～1000	10日前 1回	三番茶期に使用の場合は使用不可。 摘採・整枝直後散布で有効。 アミスターは耐性菌発生園は使用しない。 摘採・整枝3日後までの散布で有効。
	フロキサイト SC	2000	14日前 1回	
	アミスター 20フロアブル	2000	14日前 3回	
	ニマイバー水和剤	1000～1500	14日前 1回	
	テブロスフロアブル	1000～2000	14日前 2回	
炭疽病 黒葉腐病 (三番茶萌芽～1葉期)	ダコニール1000	700～1000	10日前 1回	降雨前の予防散布が基本防除 本混用散布法は、降雨が続き、散布が遅れた場合の緊急応用防除法である。
	ダコニール1000 + インダーフロアブル混用	1000 8000	10日前 1回	
(輸出茶栽培園)	クプロシールト	500	3日前 ー	銅剤の効果はやや低いので、降雨の多い時は2回散布する。
(有機栽培園)	Zホルト	400	7日前 ー	
(トリンク茶栽培園)	ダコニール1000+インダーフロアブル	1000 8000	10日前 1回	2葉期頃に散布する。
チャノミドリヒメコハイ チャノキイロアサミウマ (三番茶萌芽～1葉期)	スタークル顆粒水溶剤	2000	7日前 2回	薬剤抵抗性の発生を考慮し、同一系統 薬剤の使用は1回とする。 更新園では新芽の生育が続き、被害を 受けやすいので特に注意する。
	テッパン液剤	1000	3日前 1回	
(四番茶萌芽～1葉期)	ダントツ水溶剤	2000～4000	7日前 1回	
	エクシブル SE	2000	7日前 1回	
ハマキムシ類 (二番茶・摘採後) (第2世代若齢幼虫期)	ファルコンフロアブル	4000～8000	7日前 2回	第2世代 若齢幼虫期に散布する。 発蛾最盛期の10日後頃が散布適期。 有機栽培・輸出茶栽培園に使用可。
	アフーム乳剤	1000～2000	7日前 1回	
	ハマキ天敵	1000～2000	発生初期・前日ー	
チャノホカ (チャノサカハマキ) (三番茶芽・ 萌芽～1葉期)	スタークル顆粒水溶剤	2000	7日前 2回	1葉期頃が散布の適期である。 新葉葉裏への産卵・幼虫の葉潜り状況 を確認し、防除する。 脱皮阻害 IGR 系剤は地域により薬剤 感受性が低下しているため地区栽培 暦採用薬剤で防除する。
	サムコフロアブル 10	2000～4000	3日前 1回	
	【IGR系】 カスケード乳剤	4000	7日前 2回	
	ノモルト乳剤	2000～4000	7日前 1回	
	ファルコンフロアブル	4000～8000	7日前 2回	

☆ 隣接作物や摘採の終わっていない茶園への薬剤飛散がないように留意しましょう。

三番茶期頃に発生する病害虫



摘採（整枝）切口に発病した輪斑病



輪斑病菌 分生子



チャノトリヒメコバエ 成虫



チャノトリヒメコバエ 被害芽



チャノキイロアザミウマ 被害芽



チャノキイロアザミウマ 成虫



炭疽病 初発病斑（感染 15 日後頃）



黒葉腐病 スポット状発生